

地域の担い手ちえぶくろ

～地域活動の担い手確保のためのアイデア・取り組み事例集～

目次

1. 広報における工夫 (01kouhou.pdf)

- (1) デジタルサイネージに注目 本山北町まちづくり協議会〔東灘〕
- (2) P T Aの編集力はチカラ 鶴甲ふれあいのまちづくり協議会〔灘〕
- (3) きっかけは寸劇 北消防団有馬支団〔北〕
- (4) 見て見て うちのふれまち活動！ 「長田区ふれまちフェスタ」実行委員会〔長田〕
- (5) 人気の掲示板を狙え 塩屋まちづくり推進会〔垂水〕

2. 役員会や総会など会議における工夫 (02kaigi.pdf)

- (1) ひとりよりふたり 川池自治会〔兵庫〕

3. イベントや行事における工夫 (03event.pdf)

- (1) だんじりは共通語 各自治会等地域団体〔東灘〕
- (2) 防災は楽しく美味しく 東灘区まちづくり課〔東灘〕
- (3) 責任感が行動力になる 中道・川池ふれあいのまちづくり協議会〔兵庫〕
- (4) 子ども用品で釣る 泉台ふれあいのまちづくり協議会〔北〕
- (5) 子どもは磁石 高尾台・水野町地区まちづくり協議会〔須磨〕
- (6) 中学生が未来を奏でる 北須磨団地自治会〔須磨〕
- (7) 大学サークルと繋がろう N P O「輝たかくら台」〔須磨〕
- (8) 忍法増員の術！！ 名谷ふれあいのまちづくり協議会〔垂水〕
- (9) まち歩きにお題を！ 東垂水地区まちづくり推進会〔垂水〕

4. その他の活動における工夫 (04katsudou.pdf)

- (1) 大学生がエンジン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・なぎさふれあいのまちづくり協議会〔灘〕
- (2) 寄ってたかって学習支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・荒田地区ふれあいのまちづくり協議会〔兵庫〕
- (3) 有償の美・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・野田北ふるさとネット〔長田〕
- (4) 防犯パトには次がある・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・グループにこここリバティー〔須磨〕
- (5) 福祉は楽しい習い事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・北須磨団地自治会〔須磨〕
- (6) 趣味の延長なら協力的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・高丸ふれあいのまちづくり協議会〔垂水〕
- (7) 定年後は地域のシゴト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・つつじが丘ふれあいのまちづくり協議会〔垂水〕

5. 組織体制や運営の工夫 (05soshikitaisei)

- (1) 茶話会かたひろがる輪・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・道場町連合自治会〔北〕
- (2) 明日へ老若二人三脚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・淡河自治協議会〔北〕
- (3) あて職が本職に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・月が丘ふれあいのまちづくり協議会〔西〕

6. 他団体とつながるための工夫 (06tsunagari)

- (1) 中学生がつなぐバトン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・東川崎ふれあいのまちづくり協議会防災部会〔中央〕
- (2) ゼミなら頑張る！大学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・北五葉ふれあいのまちづくり協議会〔北〕
- (3) ハロウィンがリハーサル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・真野まちづくり推進会〔長田〕
- (4) シワの数だけグループ活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・青少年育成協議会松尾支部、松尾ふれあいのまちづくり協議会〔須磨〕
- (5) 団体3兄弟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・井吹東ふれあいのまちづくり協議会〔西〕
- (6) ジュニアから育てよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・井吹台防災福祉コミュニティ〔西〕
- (7) 任務は地域活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・神戸親和女子大学地域交流センター〔北〕

デジタルサイネージに注目





ブログ・デジタルサイネージなど IT を活用した情報発信

東灘区 本山北町まちづくり協議会

地域内外の住民の方に

IT を活用した情報発信を行うと

会の認知度・関心度が高まった。

一口メモ

※デジタルサイネージ

デジタル映像機器を使った電子掲示板

本山北町まちづくり協議会は平成 24 年 12 月に設立され、翌年 3 月よりブログを立ち上げました。ブログでは、定例会や総会の案内・報告、まちづくりニュースレターなど現在の状況から、協議会設立までの経過や協議会規約などの活動記録まで、幅広く情報を掲載し、いつでも誰にでも見てもらえるようにしました。

これは、年に 2 回紙媒体として発行するまちづくりニュースレターに比べ、ブログはよりきめ細かい活動内容を知ってもらえます。

また、行事については、本山ふれあいのまちづくり協議会や本山中央婦人会、美しい街岡本協議会、甲南大学などが企画・運営する JR 摂津本山駅のデジタルサイネージ*も活用し、幅広く情報発信をしています。

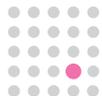


PTA

①

編集力はチカラ





それぞれの団体の強みを活かし、地域活動の輪を広げる

灘区 鶴甲ふれあいのまちづくり協議会

広報紙の制作など

各構成委員の強みを活かすと

地域活動の輪が広く浸透する

一口メモ

鶴甲ふれあいのまちづくり協議会〔以下ふれまち〕では、広報紙の作成を年 5 回、年間行事のタイミングに合わせて発行しており、イベントの告知とともに、実施されたイベントの報告も掲載しています。

ここでは、PTA 関係者の広報部会員が小学生にイベントの感想などの記事を寄稿してもらうなど、各委員の持つ強みを活かした役割分担で広報紙が作成され、幅広い年代の方々に読んでいただいています。

ふれまちの委員の「あて職」としての任期を終えられた方も、引き続き地域協力者として委員に残り、事業を担ってもらうことで、ふれあいのまちづくりの活動の輪が広く地域へ浸透することに繋がっています。



きっかけは寸劇





仲間とともに活動する楽しさは、周りに伝わる

北区 北消防団有馬支団

広報を担う女性団員の

仲間と行動する楽しさが伝わると

団員増加+他の地域活動参加へ

一口メモ

おもに消防団活動の広報を担っている女性団員は、地域での寸劇発表や駅伝大会への出場などを通じ、消防団の存在意義を地域の内外へ発信しています。

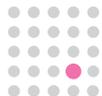
仲間とともに行う活動の楽しさは地域の若手の女性にも伝わり、当初 6 名だった女性団員は現在では 13 名に増え、さらに活躍しています。

この中からは地域の他の団体の活動にも新たに参加する人も現れるなど、個々の組織を越えて地域を支える人材が育っています。



見て見て うちのふれまち活動!





ふれまちフェスタで認知度 UP と地域間交流

長田区 「長田区ふれまちフェスタ」実行委員会

各ふれまちが協力して

一緒に活動報告の場を設けると

認知度 UP と地域間交流が生まれる

一口メモ

長田区では、区内で活動している 21 のふれあいのまちづくり協議会 [以下ふれまち] が一堂に集まり、地域福祉センターで行われている日頃の活動の成果を展示・発表する「長田区ふれまちフェスタ」を開催しています。

歌、踊り、お琴などの舞台発表、日頃の活動の写真、各協議会で作成した広報紙などの展示、手芸品や絵画などセンター利用者の作品展示を行っています。

また、腕を振るった食事や喫茶の販売コーナーや、お茶席なども設けられるなど、種々楽しむことができる工夫がされています。

ふれまちの認知度向上だけでなく、各ふれまちの交流・情報交換にも一役買っているイベントです。



人気の掲示板を狙え





人通りの多い場所に掲示板を置く

垂水区 塩屋まちづくり推進会

掲示板を人通りの多い場所に置くと

より多くの人目に触れ、

地域活動に参加する人が増えた。

一口メモ

塩屋まちづくり推進会では、ホームページとブログの発信も行っており、まち歩きのイベントなどには、ホームページやブログを見て、塩屋に関心がある人などの地区外からの参加者もあるそうです。

塩屋まちづくり推進会では、推進会独自の掲示板だけではなく、駅やコンビニエンスストア、商店会、自治会などの人通りの多い場所の掲示板にも、活動チラシを掲示しています。また、他の団体にご協力いただくことで、より多くの人に内容を伝えられています。

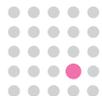
さらに、掲示するチラシ自体もデザインやキャッチコピー、テーマにあった目を引く写真を載せるなどの工夫をしています。

こうした取組みの結果、ホームページではなく掲示板にあるチラシを見て活動に参加された人が現れるなど、広報手段として効果があると推進会のメンバーは考えています。



ひとりよりふたり





地域活動に参加したくなる企画、参加しやすい状況をつくる

兵庫区 川池自治会

知り合い同士・夫婦での参加など

活動に関わりやすい工夫をすると

新たな担い手が増える

一口メモ

川池自治会では、次の担い手を自分たちで育てなければならなかった役員が知恵を出し合い、年賀状大会・絵や裁縫などの作品展・フリーマーケット・ミシン教室など、多くの世代が楽しく参加できる企画を数年前から次々と実施し、住民の皆さんが気軽に自治会館に入入りできる土壌づくりを行ってきました。

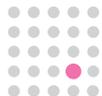
主に女性の参加を意図することで、その夫である男性も自然と地域行事に参加してくれるようになりました。

そのような中、地域活動に関心のありそうな女性[60代]2名に個別に声をかけ、自治会役員会のオブザーバー参加に誘いました。知り合い同士複数名で参加してもらったことが敷居を下げたようです。参加した女性2名は、その後町丁単位の自治会の役員となり活躍しています。



だんじりは
共通語





地域の伝統行事と地域活動

東灘区 各自治会等地域団体

幼少期に「だんじり」に参加すると

中高生には「地域活動」にも参加し、

大人になると、地域の担い手になる。

一口メモ

東灘区には、32基のだんじりとその保存・振興を担う団体があり、ご年配の方がその団体の長です。だんじりの引手は20代から50代が中心ですが、中・高校生もだんじり囃子や踊り手で参加するなど、だんじりは3～4世代が関わる地域の伝統行事です。

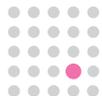
一方、幼稚園や保育所で、こどもだんじりを学んだり、小学校でも上級生が下級生にだんじり囃子を指導したり、これらの成果を地域行事で披露するなど、地域の伝統行事が幼少期から継承されています。

この子どもたちが中・高校生になるとだんじりだけでなく、夜警や見守り等の地域活動にも参加しています。さらに、大人になっても、青年会や消防団への加入、青少協の支部員への就任、最終的に自治会などの地域団体の役員としても活躍されています。



防災は楽しく美味しく





「楽しそう」という企画を考えると、きっかけが生まれる

東灘区 東灘区まちづくり課

重苦しくなりそうな防災訓練で

楽しく取組める企画の工夫をすると

多世代が集まり、繋がりが生まれた

一口メモ

平成 28 年度、東灘区まちづくり課では「防災」をテーマとしたマンションセミナーを開催しました。

その中で防災訓練を実施しましたが、普通に行うとどうしても重苦しい雰囲気になるのではないかと懸念していました。

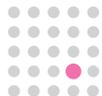
そこで「楽しそう」と興味を持ってもらい、多くの人に集まってもらうため、「防災お菓子ポシェット作り」を行いました。子ども達が大好きなお菓子 [日持ちがするもの] を、いざという時の備えに、お母さん・お父さんと一緒に作ったポシェットに入れて保存します。

子ども達が楽しく防災の取組を行ったことで、お母さん・お父さんも集まり、さらに地域の大人達のつながりを広めていくきっかけとなりました。



責任感が行動力になる





責任を持たせて仕事を任せることで、地域活動の当事者意識が高まる

兵庫県 中道ふれあいのまちづくり協議会・川池ふれあいのまちづくり協議会

PTAの役員や経験者に

責任を持たせて仕事を任せると

充実感から地域活動への意識UPへ

一口メモ

中道地区ふれあいのまちづくり協議会と川池ふれあいのまちづくり協議会は、活動範囲が1つの小中学校区でまとまっているため、学校という核となる存在を通じて非常に良好な連携関係にあり、「会下山Waiwai夏祭り」や地域の「ふれあい運動会」などのイベントを青少年育成協議会などとも合同で実施しています。

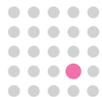
イベントでは、主にPTAの役員や経験者に、運営や出店ブースの世話など、ある程度責任を持たせて仕事を任せています。その結果、スタッフとして大変だけれどもやりがいや充実感を体験してもらうことで、地域活動への意識を高めています。

また、イベント終了後は、必ずスタッフ全員に声をかけ、気軽な打ち上げを行い、交流と親睦を深めています。



子ども用品で釣る





子ども用品フリーマーケットを通じて子育て世帯の輪を広げよう

北区 泉台ふれあいのまちづくり協議会

子育てが始まる・終わる方々に

子ども用品のフリマを継続開催すると

他の子育て・地域の行事に参加する

一口メモ

※子育てサロンは、児童館では第1・3金曜日、地域福祉センターでは第2・4金曜日に開催しています。

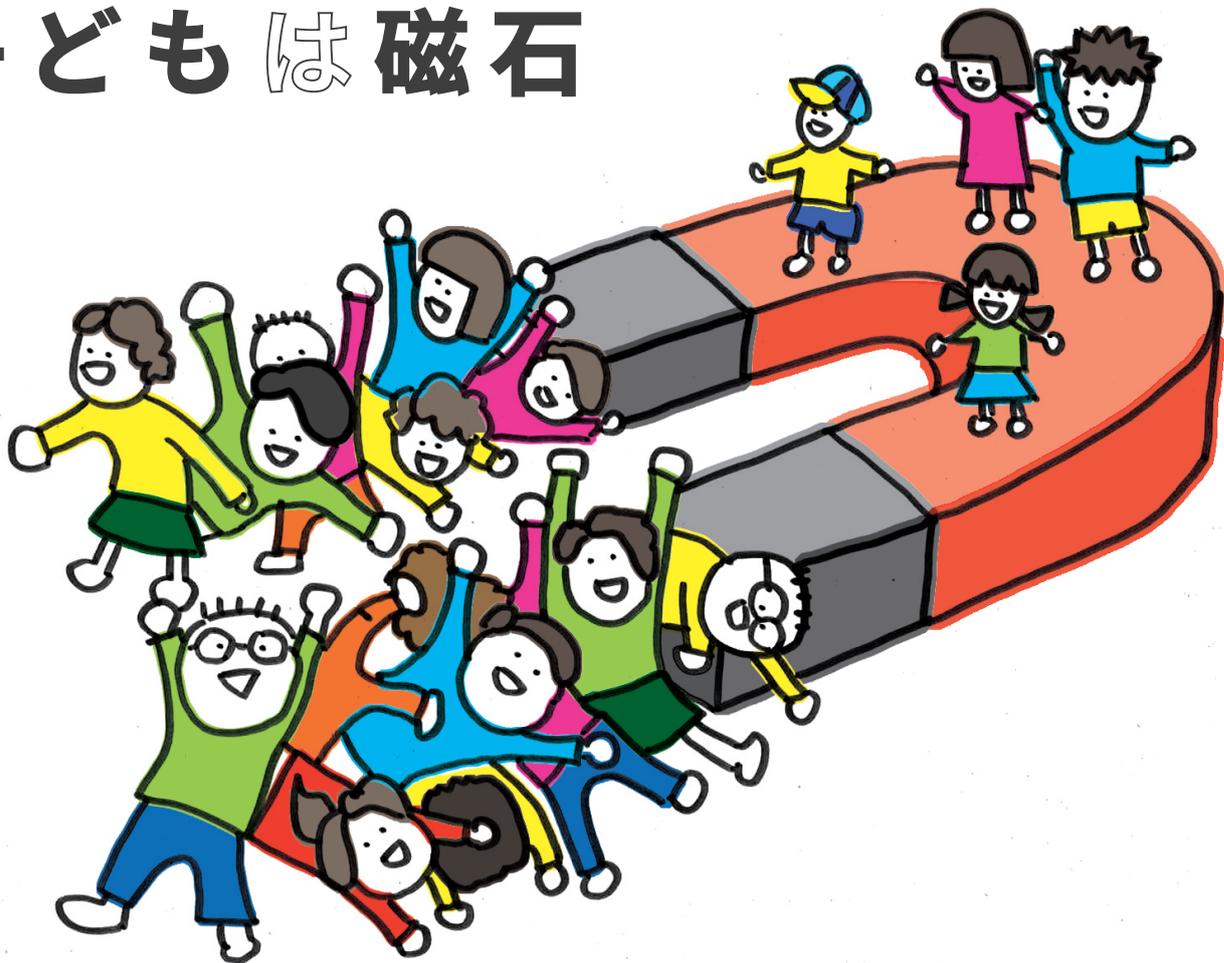
泉台ふれあいのまちづくり協議会では、平成24年1月から年に2回、リサイクルフリーマーケット「子ども用品限定@たすけ愛・はぴエコマーケット」を泉台児童館で開催しています。出品者はブース代もお店番も不要で、出品物に登録番号と値札をつけるだけで気軽に出品でき、売上金も100%渡される仕組みです。

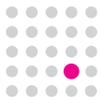
新しく子育て世帯になる方は購入者として、子育てを終えた方は出品者として参加しています。

これをきっかけに、子育てサロンに参加する方もいるなど、ほかの地域行事に参加するきっかけとなっています。



子どもは磁石





子ども向けイベントで、保護者を呼び込む

須磨区 高尾台・水野町地区まちづくり協議会

子ども向けイベントを、

ほぼ毎月、開催すると、

保護者がイベントの担い手となる。

一口メモ

高尾台・水野町地区まちづくり協議会では、ほぼ毎月のように子ども向けのイベントを開催しています。

例えば、季節感のあるキャンプやハロウィンなどのイベントや、幅広い学年の子どもたちが楽しめるようなイベントを地域で企画して頻繁に行いました。

その結果、参加者の方々がお互い顔の見える関係になり、保護者を中心にイベントの企画・運営を担ってくれる方が増加しました。

今後はイベントだけでなく、現在、取組みを進めている「高尾台・水野町地区まちづくり構想」の実現に向けた、まちづくりの担い手としても参画してもらえることを目指しています。



中学生が未来を奏でる





地域イベントを通じた地元中学生の地域愛着度強化+α

須磨区 北須磨団地自治会

地域行事で地元の中学生に

様々な出番や手伝いをお願いすると

親世代の地域活動の理解に繋がる

一口メモ

北須磨団地自治会では、地域のイベントに友が丘中学校の生徒さんにお手伝いをお願いしています。

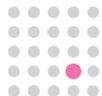
毎年5月の友愛まつりのオープニングではプラスバンド部に演奏してもらい、華やかさを演出するとともに、そのお礼に屋台で使えるチケットを渡し、楽しんでもらうなど、まつりの賑わいに繋がっています。また、盆踊り大会や餅つき大会など、中学生ともなれば、とても頼りになる存在です。

中学生の地域イベントの参加は、人手の確保はもちろん、中学生が地域の愛着を感じることで、親世代の地域活動への理解に繋がっています。



大学サークルと繋がるろう





大学生の得意分野を活かした地域ボランティア参加

須磨区 NPO「輝たかくら台」

ふれあい給食で、大学生に

得意分野を活かし、協力してもらおうと

内容が豊富になり参加者も増えた

一口メモ

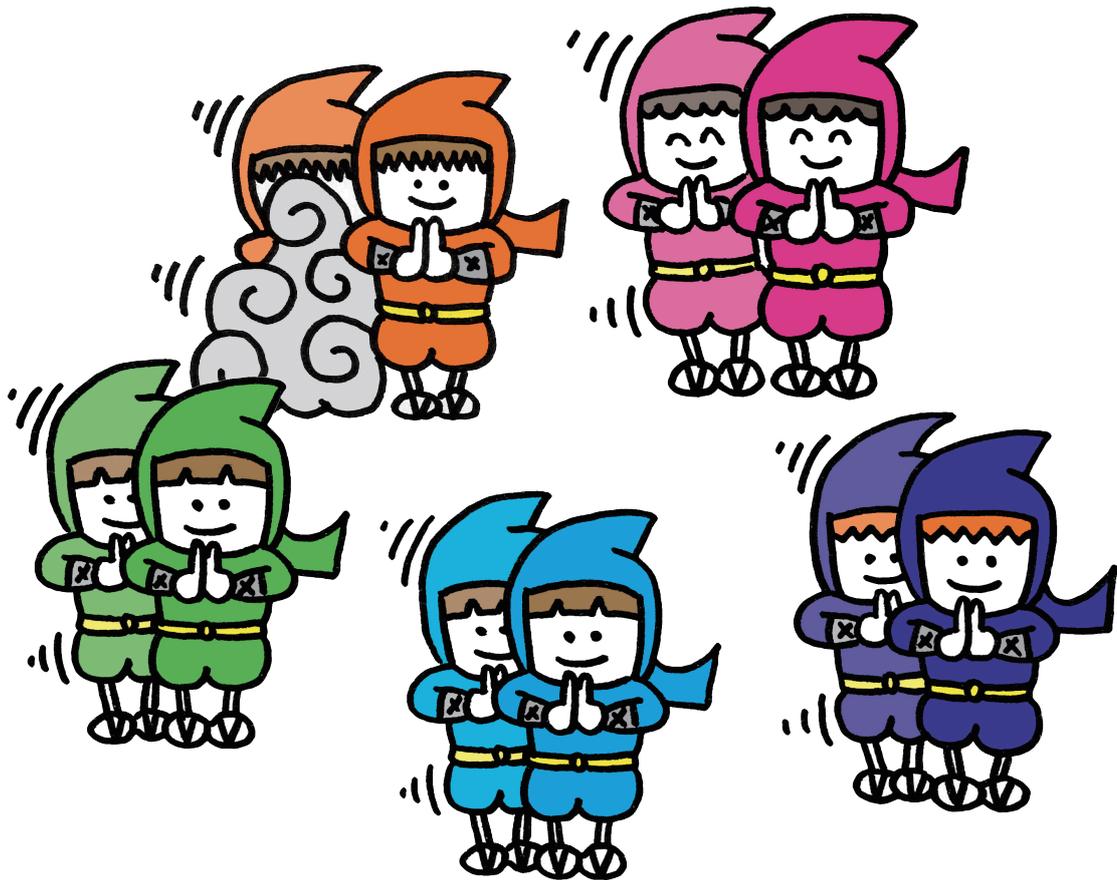
高倉台地区では 65 歳以上の一人暮らしの方を対象に、毎月 1 回ふれあい給食を実施しています。ここでは、近隣の神戸女子大学にボランティアで参加してもらっています。

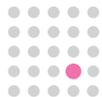
ふれあい給食当日は、管理栄養士養成課程の学生が中心のサークルには配膳などのお手伝いを、コーラス部や箏曲、ダンス同好会などにはそれぞれの演目の披露を、茶道部にはお茶席の設けてもらうなど、それぞれの得意分野を活かしてもらい、地域でご参加いただく方の楽しみとなっています。

大学生に参加してもらうことで、イベントの内容に広がりができ、地域での参加の輪も広がっています。



忍法増員の術!!





ママ友と一緒にあれば、地域活動に参加しやすい。

垂水区 名谷ふれあいのまちづくり協議会

若いお母さん達が地域行事に

友達同士で参加できるようにすると

活動に協力してくる人が増えた

一口メモ

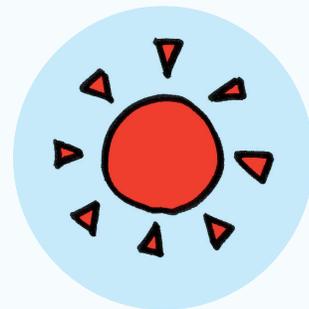
名谷ふれあいのまちづくり協議会では、若いお母さんたちがイベントなどの地域行事に参加しやすくするために、友達同士誘い合ってグループで活動できるようにしました。

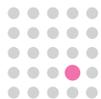
一人では参加する勇気が出なくても、「ママ友と一緒になら!」と活動に協力して下さる方が増えています。

今後は、お試してグループ参加する中で、既存メンバーとも顔見知りになり、一人でも気軽に参加する方が増えてくれるよう期待しています。



まち歩きにお題を!





企画段階から地域ぐるみで考える

垂水区 東垂水地区まちづくり推進会

「まち歩き」のイベントについて

広報・企画など様々な工夫をすると

地域活動に関心を持つ人が増えた

一口メモ

東垂水地区まちづくり推進会では、まちの「いいところ」や「わるいところ」を歩いて見つけようと「わがまちウォーク」を年2回実施しています。

より多くの参加者を募るために広報を広く行い、違う目で色々な角度からまちを見てもらうため、みんなで話し合い、テーマとコースを変えるなどの工夫をしています。

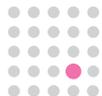
さらに、参加者を募りワークショップで話し合った結果、これまでとは違った地域を見て回るわがまちウォークとなりました。

このイベントを入りに、どこにどのような地域課題があるのか、多くの人で話し合うことで、地域への関心を持つ人が増え、その後定例会に参加する方も出てきました。



大学生がエンジン





大学生との継続的な取組から生まれる新たな展開

灘区 なぎさふれあいのまちづくり協議会

大学生と日々の地域活動において

継続的な協力関係を築くことで

新たな事業と繋がりが生まれた

一口メモ

なぎさふれあいのまちづくり協議会の特色の1つは、近隣大学生と協力関係です。ここでは大学生と高齢者の交流拠点として「神大喫茶」の開催や、もちつきや夏祭り、子育てイベント等にも大学生が協力しています。

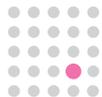
平成27年、協議会は夏休みに子どもが集まり宿題をする場を提供したいと考え、繋がりのある大学生に相談しました。結果、大学生と夏休み期間中「HATなぎさサマースクール」を開催。保護者への周知や子どもの保険加入などは協議会が、子どもたちの勉強相手・話し相手は大学生が行いました。このように、大学生と地域が継続的に協力関係を築くことで、新たな活動が可能となり、円滑に活動を開始できました。

さらに、協議会に接する機会がなかった子育て世代が協議会や地域福祉センターを知ってくれました。



寄って
たか
か
つて
学
習
支
援





子ども達を地域福祉センターに呼び込もう

兵庫県 荒田地区ふれあいのまちづくり協議会

小学生に、地域福祉センターを

学習室として開放し、勉強を見守ると

幅広い世代の交流に繋がっている

一口メモ

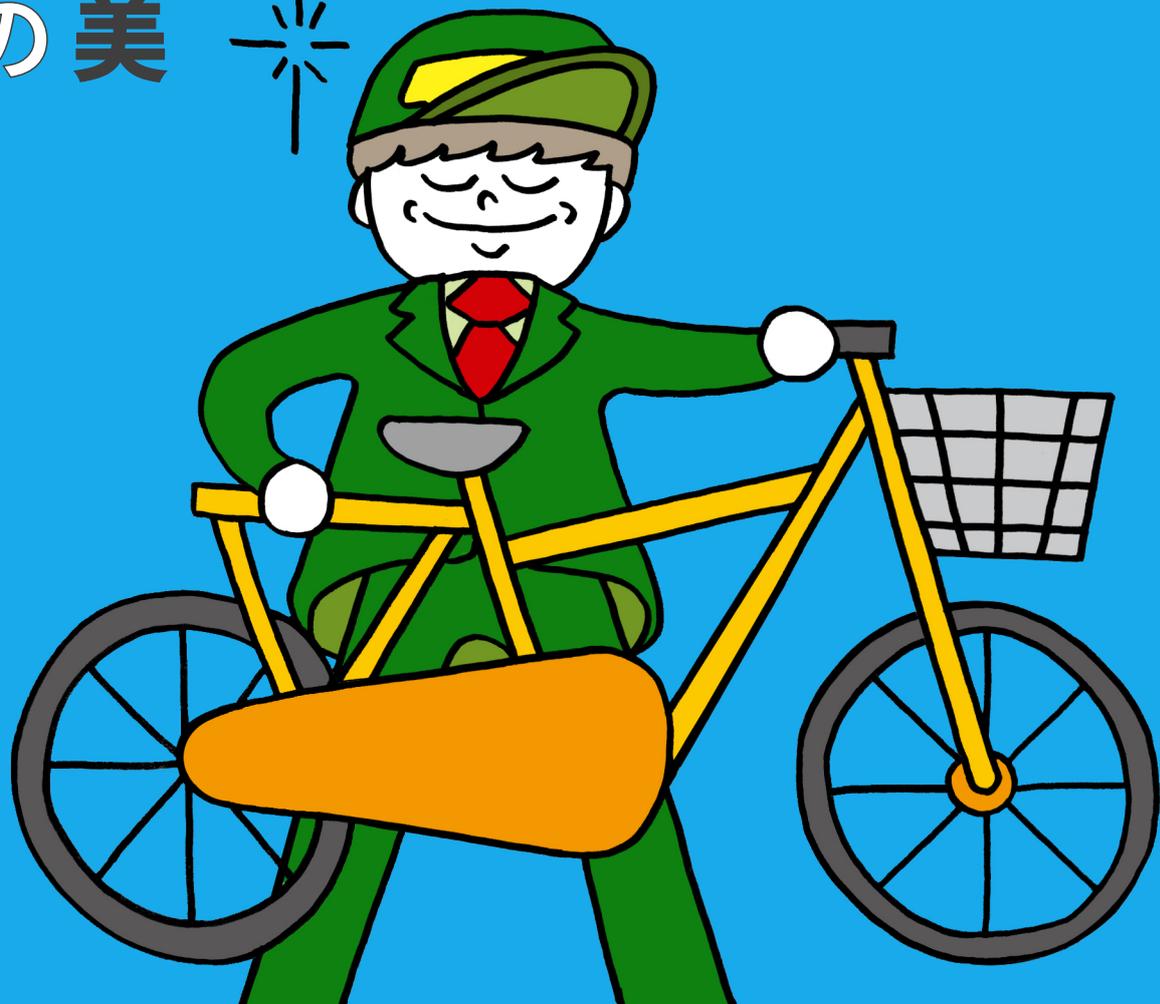
荒田地区ふれあいのまちづくり協議会では、平成 28 年 8 月より、毎週土曜日午前を「子ども学習室」として地域福祉センターを開放し、地域の子子ども達が自由に学習できる環境づくりに努めています。

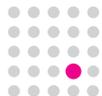
学習室に通う子ども達も参加に意欲的であり、また、多くの大人に関わることで、学習への意欲や態度の向上も見られます。

さらにこの子ども達が、地域の「バザー」でワッフルの販売スタッフとしてお手伝いをするなど、地域で子どもを見守る、育てるよい環境が生まれています。



有償の美 ✨





有償ボランティアをきっかけとした地域活動の担い手確保

長田区 野田北ふるさとネット

地域の方に、駐輪場管理業務の

有償ボランティアに関わってもらおうと

他の地域活動への参加に繋がった

一口メモ

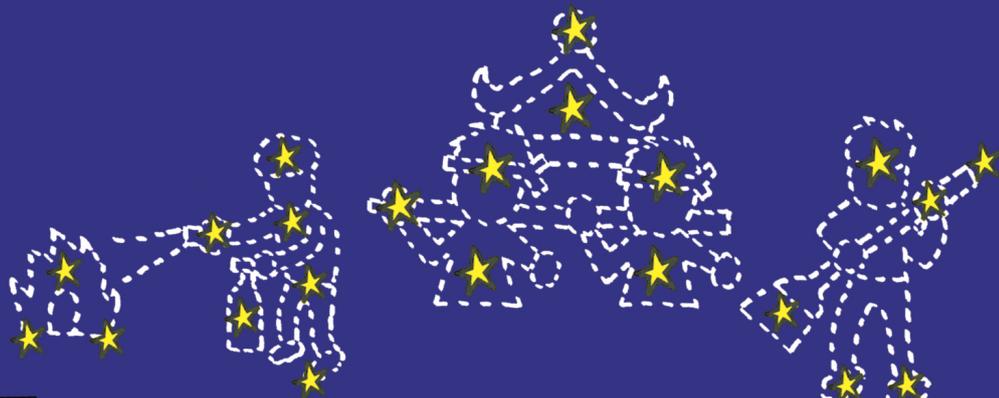
野田北部地区では、特定非営利活動法人たかとりコミュニティセンターが平成 17 年 8 月から市立鷹取駅前駐輪場の指定管理者〔平成 29 年 4 月からは野田北部自治連合会が指定管理者〕となり、地域との協働事業として、駐輪場の適切な管理や美しい駅前空間づくりに努めています。

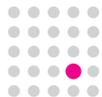
運営上必要となる管理員〔有償ボランティア約 30 名〕については、地区内を中心に希望者を募り、約半数が地域の住民で構成されています。

駐輪場管理をきっかけに、地域のまちづくりや地域活動に関心を持ち、活動への参加や、定例会へ出席する人も現れてきており、地域の担い手発掘につながっています。



防犯パトには次がある





夏休み期間を利用した子どもたちとの防犯パトロール

須磨区 グループにここりバティー

夏休み、小学生とその保護者に

防犯パトロールに参加してもらおうと

地域活動への理解や参加に繋がる

一口メモ

地域の防犯活動団体である「グループにここりバティー」では、防犯パトロールを毎月1回40～50人規模で実施してしています。

このうち夏休み期間中の1回は、地域の小学生と保護者、中学生も自主参加し、約100人で防犯パトロールを行っています。

親子で防犯意識を高めるとともに、夏祭りやもちつき大会などの地域活動においても小中学生が積極的に手伝いに参加するなど、地域活動への理解を深めることにもつながっています。



福祉は楽しい習い事

英会話



ピアノ



福祉





地域住民が発表する学びの場を継続的に実施する

須磨区 北須磨団地自治会

地域住民が中心に発表する

学習会を年2回実施すると

地域活動への参加意欲が高まる

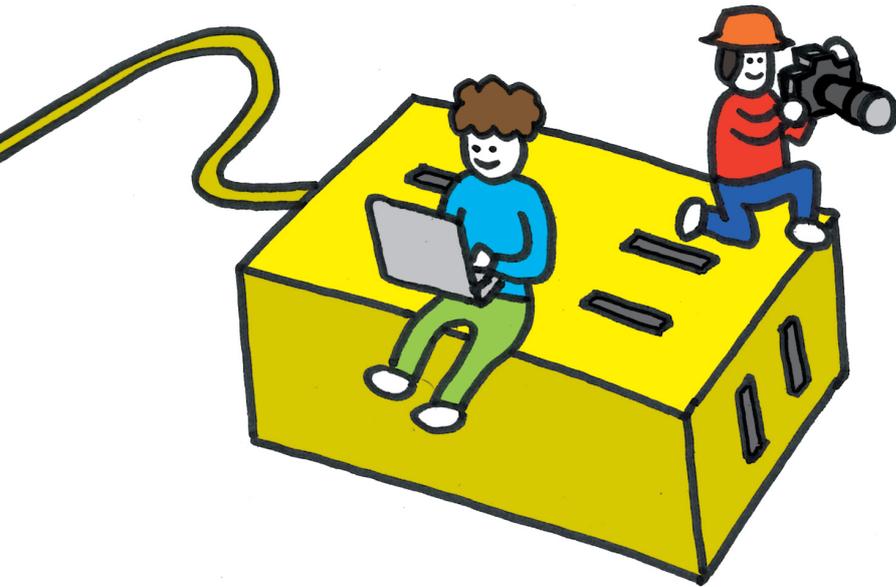
一口メモ

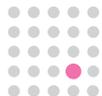
北須磨地区では、平成 19 年から春は「子育て」、秋は「高齢福祉」をテーマに、北須磨団地の住民やそれに関わる人たちが日々の活動を発表する「地域みんなで支え愛学習会」を実施しています。発表した人は、もう一度パネリストになることができないことが特徴の一つです。

マンネリ化することなく毎年様々な題材を取り上げることで、地域福祉の課題を広く認識してもらい、ボランティア活動への興味や関心を高めることに繋がっています。



趣味の延長なら協力的





趣味や得意分野を活かした地域活動

垂水区 高丸ふれあいのまちづくり協議会

組織のメンバーやイベント参加者に

得意分野で運営の協力依頼すると

意欲的に地域活動に関わってくれる

一口メモ

高丸ふれあいのまちづくり協議会 [以下ふれまち] では、年 4 回発行している広報紙について、パソコンが得意な方が紙面のデザインからデータ入稿まで制作してもらえるようになりました。これに併せて、制作して下さる方も、以前より主体的にふれまちの活動に関わってもらえるようになりました。

また、以前はモノクロ印刷でしたが、データ入稿まで自ら制作することで、カラー印刷に変更してもより経費を安くすることができました。



定年後は地域のシゴト





退職世代に地域活動に参加してもらおう

垂水区 つつじが丘ふれあいのまちづくり協議会

60代の退職世代に

興味のあるイベントを実施すると

地域活動に参加する人が増えた

一口メモ

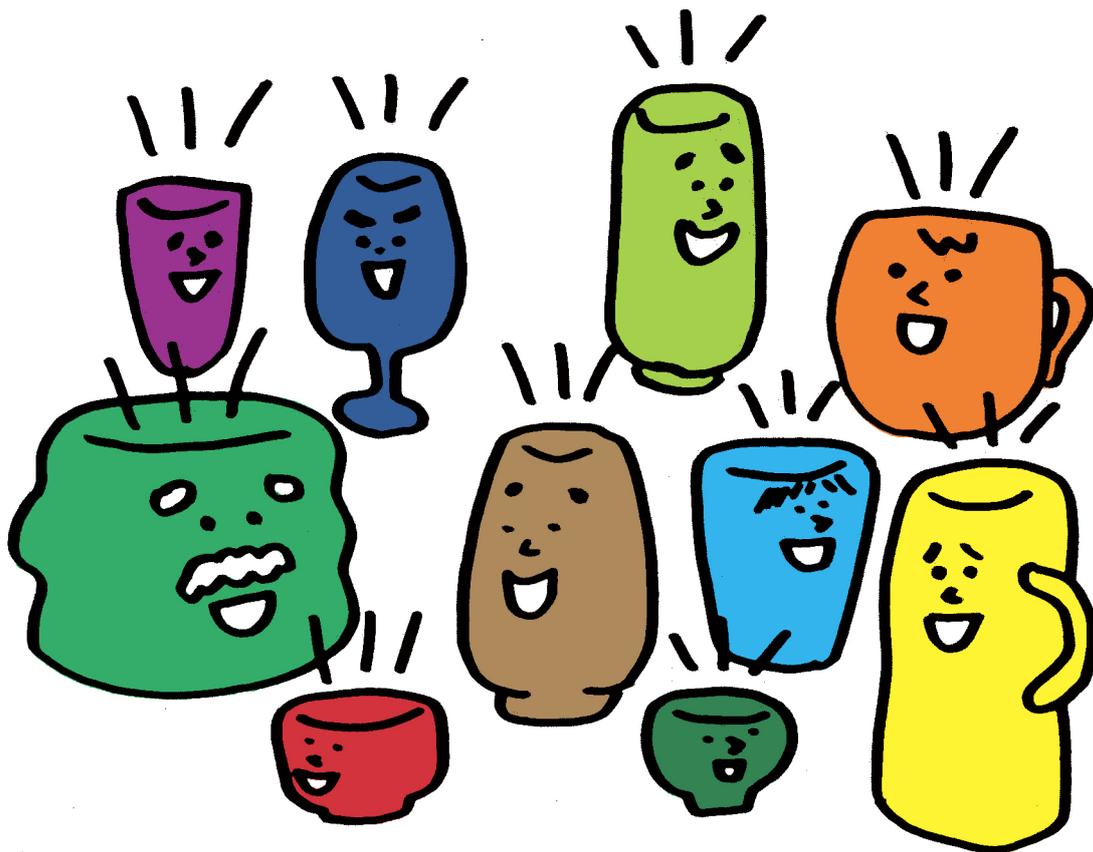
つつじが丘では、認知症の見守り活動や防災訓練を取り入れた「つつじこまつり」など、多様な地域活動が行われています。

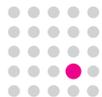
この地域は開発から 40 年経過したオールドタウンで、少子高齢化の問題を抱えながらも、ふれあいのまちづくり協議会 [以下ふれまち] のメンバーは“できる人ができる時に”をモットーに地域活動を実践されています。

そんな折、60代後半の方々に、ふれまちの仲間に入ってもらいたいとの思いから、みなさんの関心が高いゴルフコンペを開催したところ、期待どおり多くの方が参加してくれました。そこから交流が生まれ、現在では、その参加者が、地域の防犯・防災パトロールの中心的な役割を担っています。



茶話会からひろがる輪





若手との対話から生まれる新たな取組

北区 道場町連合自治会

PTAなどで活動する地域の若手と

まちの未来を話す場を設けると

若手有志の会が発足、様々な活動へ

一口メモ

道場町連合自治会では、PTA等の若手6名に対し、まちの将来を考える「茶話会」を開催しました。この6名は、地域が小学校の運動場を休日利用するときの運営組織の中心メンバーでした。その半年後に連合自治会の働きかけにより、20-40代の約30人からなる「道場みらい隊」が発足しました。

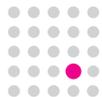
みらい隊のメンバーは、自治会の協力を得ながら、地域の文化祭への出店や運動会種目のリニューアルなど、地域の活性化に繋がるような新しい取り組みをはじめています。

また、自治会の年長者と協働し、まちづくり計画の策定に向けた議論も行っています。



明日 [∧] 老若二人三脚





次世代の意見を傾聴する

北区 淡河町自治協議会

自治会の年長者たちは

地域活動に励む若手グループの声を

未来の大切な話として傾聴している

一口メモ

淡河町では、以前から豊かな発想と行動力をもって、独自の活動の企画運営を行う若い世代のグループ「淡河の明日を考える会 [淡河ワッショイ]」があります。彼らはこれまで様々な地域課題に自主的に取り組み、成果を上げてきました。

自治会の年長者は、このような取り組みを尊重するとともに、自治会組織にも位置づけられているこの若い世代のグループと議論しながら連携しています。

年長者たちは、若手の意見を「地域の未来を育む次世代の意見」として傾聴しながら、連携して地域活動に取り組んでいることが特徴です。



あて職が本職に





任期を終えた「あて職」の方への無理のない継続的な参加

西区 月が丘ふれあいのまちづくり協議会

あて職の方々に、任期終了後

ボランティア登録をお願いすると

登録が100人を超え、幅広い活動に

一口メモ

月が丘ふれあいのまちづくり協議会では、まつり等の行事のお手伝いをする「月が丘ボランティア」と、協議会の構成員として会議に毎月出席し、行事や見守り活動などの事業を計画・実施してもらう「地域ボランティア」の2種類のボランティア登録制度を設けています。

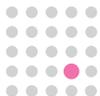
自治会・青少年育成協議会などから「あて職」で協議会委員になって任期を終えた方や、地域の活動に興味を持たれた方に、ボランティア登録をお願いしています。今では100人を超える方が登録しており、それぞれにあった活動を依頼しています。

協議会や地域活動をよく理解されていて、経験のある方に登録・参加してもらえるため、子どもの居場所づくりなど新しい事業にも取り組むことができます。



中学生が つなぐバトン





防災を通じた中学校と地域との連携

中央区 東川崎ふれあいのまちづくり協議会 防災部会

防災に興味ある生徒を

防災ジュニアチームとして任命すると

地域との絆が深まっている

一口メモ

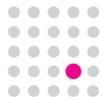
東川崎ふれあいのまちづくり協議会防災部会では、震災の教訓を風化させない、将来の地域の担い手として、また社会教育の一貫として、平成8年「防災ジュニアチーム」を発足しました。各種防災訓練を現在月1回程度実施し、20年間で約440人が修了しています。その中で「この訓練を早く経験していたら、震災の時、亡くした兄弟を助けられたかも」という声も聞かれます。

この活動では、①押し付けはうまくいかないで、子供の意思を尊重する。②先輩の模範演技を見せて、メンバーになりたいと思わせる。③訓練で間違っても、大人が口を出さない、手伝わない。④訓練は子供が優先、大人は後です。などの工夫をしています。現在、地域に子どもが少なくなる中でも、中学校が参加者を募集し、地域住民とともに防災訓練を実施しています。



ゼミなら頑張る！大学生





大学のゼミと連携して若者の地域活動参加に繋げよう

北区 北五葉ふれあいのまちづくり協議会

大学のゼミと連携して

防災キャンプを一緒に実施すると

参加者の貴重な体験に繋がる

一口メモ

北五葉ふれあいのまちづくり協議会では、平成 27 年から実施している 8 月の防災キャンプに、神戸学院大学の学生にゼミの一環として参加してもらっています。

大学生が企画運営を行い、グループリーダーとして小学生を指導してもらう一方で、協議会役員と防災部員が炊き出しなどを行っています。

大学生は学んでいることを自ら実践し、地域側が必要なサポートを行うことで、小学生に貴重な経験を提供することができます。また参加した子どもたちの家庭でも、キャンプのことを話し合うことで、防災や地域に対する意識の向上につながっています。



ハロウィンがリハーサル





各団体が連携した子どもが参加したくなるイベントの実施

長田区 真野地区まちづくり推進会

他団体の子ども向けイベントで

推進会が企画運営に協力することで

相互の強みが発揮されよい取組に

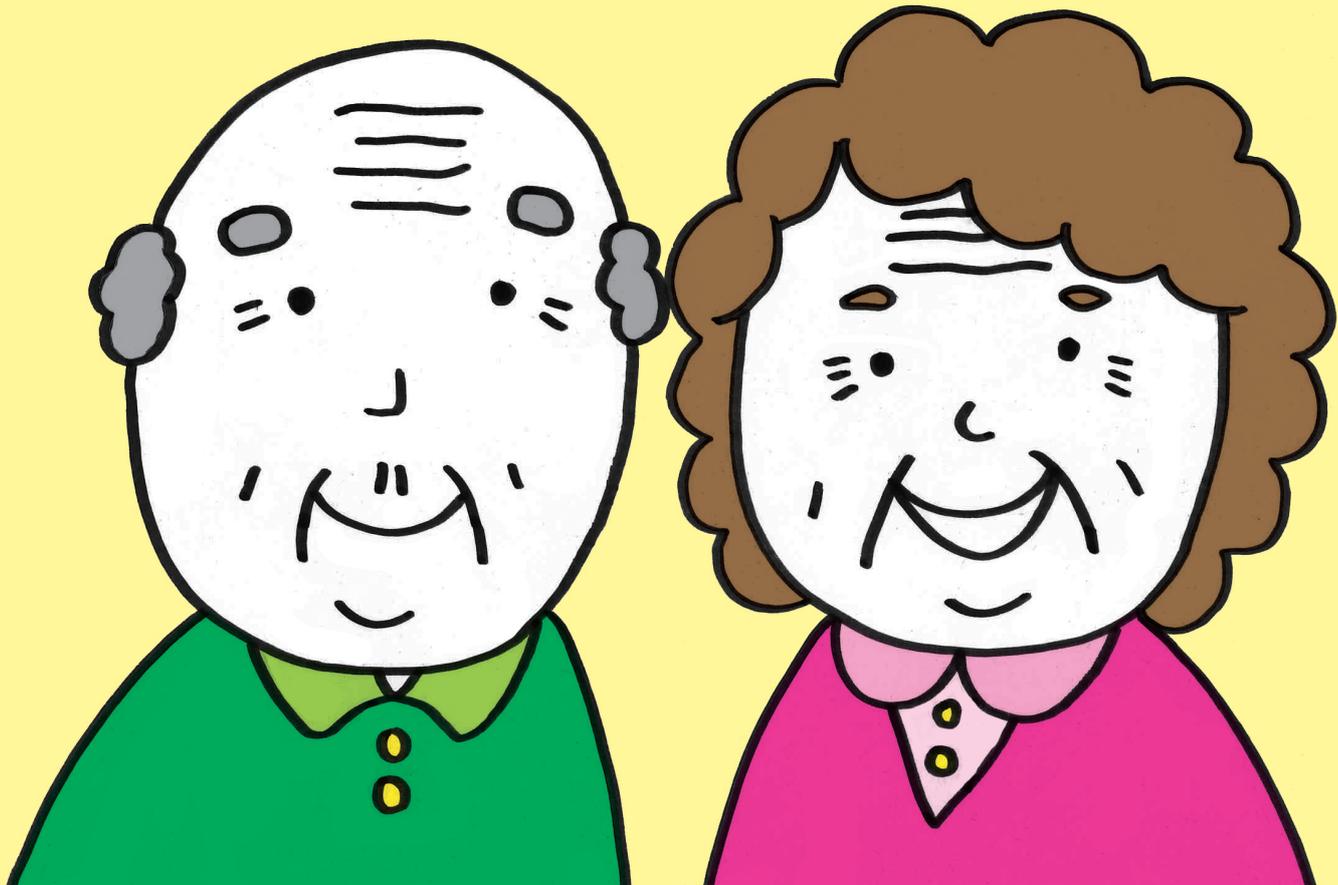
一口メモ

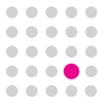
昭和55年創設の真野地区まちづくり推進会 [以下推進会] は、長年に渡ってまちづくり活動に取り組み、まちづくりのノウハウやネットワークの蓄積を持っています。

平成 28 年に青少年育成協議会 [以下青少年協]・PTA が、ハロウィンに合わせた子ども向けイベント「マノウィン」を開催。これは小学生が仮装し、地区内の「こども 110 番の家」約 30 件をまわり、お菓子をもらうイベントです。子どもたちは、楽しみながらいざというときに助けを求められる「こども 110 番の家」の場所を頭に入れることができました。

推進会は、青少協・PTA の裏方として、企業への協賛依頼やイベント協力者の募集、新聞社への広報等を担当。各団体の連携により、単独開催に比べ質・量ともにより素晴らしい取り組みとなり、子どもたちが大いに楽しむとともに、新聞にも取り上げられました。

シワの数だけグループ活動





シルバーカレッジ生との連携した地域活動

須磨区 青少年育成協議会松尾支部、松尾ふれあいのまちづくり協議会

シルバーカレッジで学んだ方に

地域活動への協力をお願いしますと

グループを創り、活動に参加している

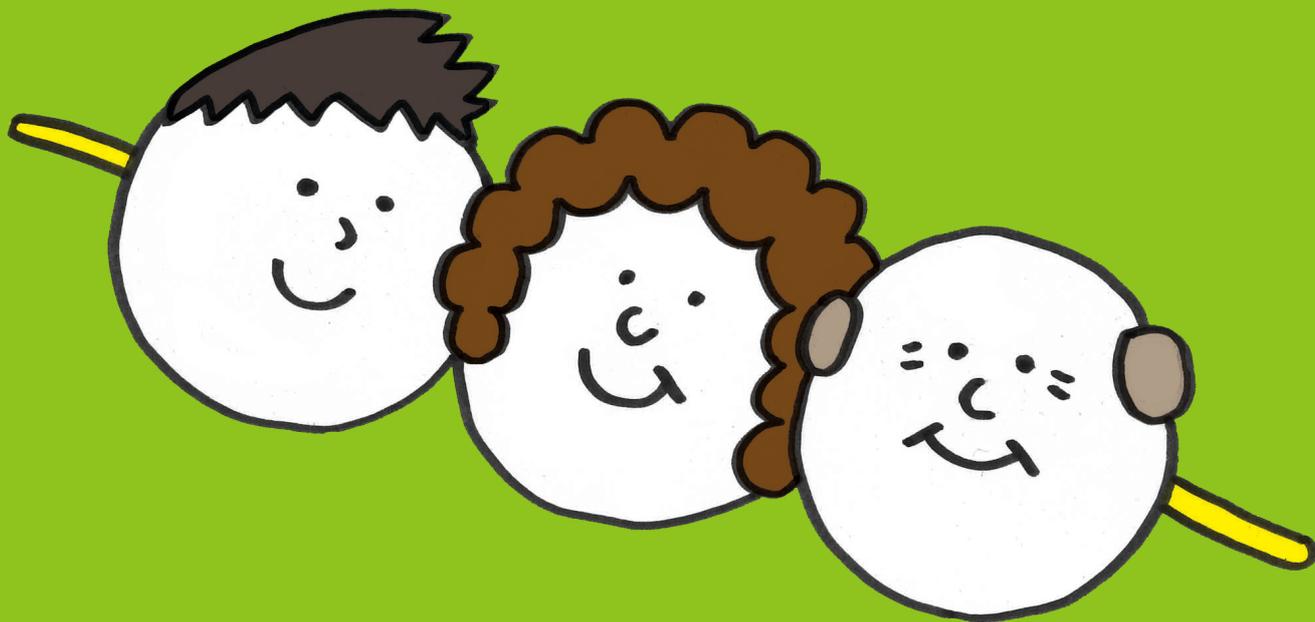
一口メモ

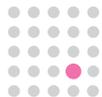
青少年育成協議会松尾支部と松尾ふれあいのまちづくり協議会〔以下ふれまち〕では、役員がシルバーカレッジの人の知り合いに声かけをしたことがきっかけとなり、シルバーカレッジ地域交流部の現役生・卒業生で構成されている「KSC 松尾」と連携して活動をしています。

「KSC 松尾」のメンバーには青少年育成協議会の定例会に出席してもらっており、そのことがきっかけとなって、ふれまちの大きなイベントでは他の所属団体と一緒に運営に参加してもらっています。



团体3兄弟





色々な地域のグループに寄り添い、活動の輪を広げる

西区 井吹東ふれあいのまちづくり協議会

地域で活動している他団体の

各活動に協力し、相手に寄り添うと

活動の幅や繋がりが広がっていく

一口メモ

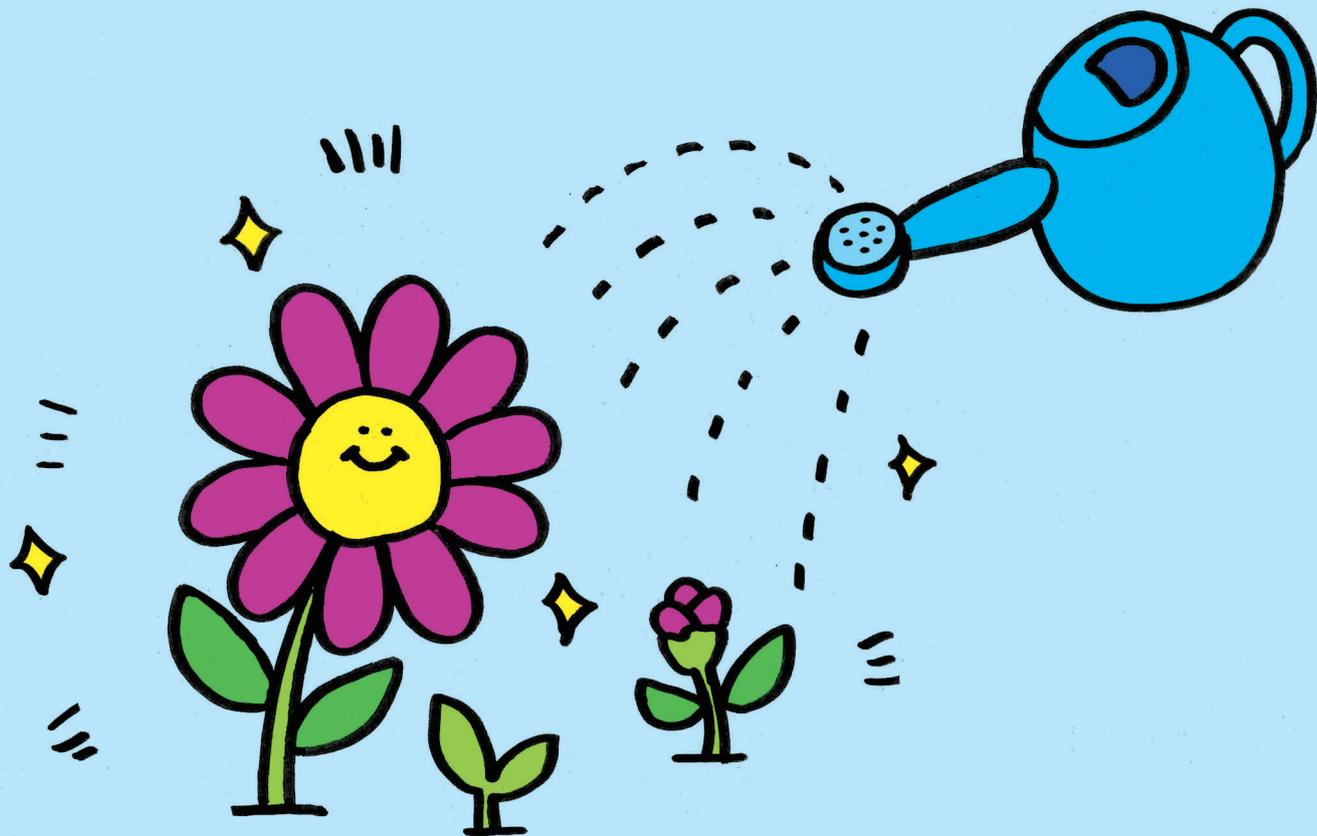
井吹東ふれあいのまちづくり協議会〔以下ふれまち〕では、保護者会など、特定の目的を持ち活動している団体やグループに、積極的に協力を申し出て、信頼関係を築き、少しずつふれまち活動の幅を広げています。

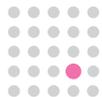
そのとき、最初からふれまち活動に協力してもらおうとするのではなく、それぞれの活動に協力し相手の立場に寄り添うことで、少しずつ地域活動全体に関心を持ってもらえるようにしています。

結果、地域活動に関わりがなかった人達にも自然と地域に興味を持ってもらうきっかけになり、次第に人と人との繋がりが広がっています。



ジュニアから育てよう





防災ジュニアチームから始まる地域活動

西区 井吹台防災福祉コミュニティ

小・中学生がジュニアチームを通じて

様々な地域行事に関わると

地域活動への参加が当たり前

一口メモ

井吹台防災福祉コミュニティでは、小学校や中学校、他の地域団体と連携し、ジュニアチームを結成しています。ここでは、子どもが「自分の身は自分で守る」事を考え、いざという時行動できるよう防災訓練に参加するなど、小学生から経験を積み重ねることを大切にしています。

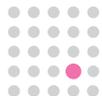
平成14年立ち上げ時は中学生だけでしたが、平成18年からは小学生も加わり、毎年、各学校を通じて隊員を募集しています。活動は年間10回程度で、防災訓練や市民救命士講習だけでなく、クリーン作戦や募金活動、祭りの手伝いなどの地域活動も行い、子ども達が地域に愛着を持ち、生き生きと活動できる居場所づくりを目指しています。

このチームを経験した子ども達は、地域活動への参加が当たり前と感じており、大人になっても、地域活動に参加してくれることが期待されます。



任務は地域活動





大学と地域の協力活動

北区 神戸親和女子大学地域交流センター

大学が地域活動に関わると

担い手充足等の地域貢献と併せて

学生の社会貢献が同時に実現

一口メモ

神戸親和女子大学内設置の「地域交流センター」は、地域の方々対象のイベント開催・ボランティアの支援統括など、学生を組織的に地域に繋ぐ役割を果たしています。

センターでは、新入生へのボランティア活動の紹介や、ゼミでのボランティア登録の方法の周知など、学生のボランティア活動の動機付けを進めています。

開催イベントでは、大学のある小部東小学校区を中心に広く参加があり、参加者の交流など地域活性化に努めています。地域も大学を「地域の一員」として児童館行事を協力開催するなど、地域活動の担い手として活躍しています。活動範囲は東小部地域に留まらず、広域にわたり、活動内容は要請に応じて「給食サービスのアトラクション」「スポーツ活動の応援」など多彩です。

派遣先の評判も良好で、継続的に依頼があり、活動は量的拡大をつづけ、地域での担い手確保・育成に大きく貢献しています。

